

月の満ち欠け

1 / 16 (木)	満月
1 / 24 (金)	下弦
1 / 31 (金)	新月
2 / 7 (金)	上弦

ある調査に拠りますと、死亡事故に関して新月、満月の時期に集中しているという。私の長年の代理店経験でも、明らかに自動車事故は新月、満月の日に多いのです。いつにも増して安全運転を。

事故対策 ワンポイントアドバイス
～トミー～

記憶の記録について—自動車事故の場合—

私自身が保険会社損害担当職員との会話の中で大変不愉快に感じるのは、車と車の衝突や接触時に、「双方の車が動いていたので、双方に責任がある」と応酬話法で平然と積極的に使う損害担当職員がまだまだ多く存在しとても残念です。単に、双方動いていたからではなく、予見・回避性・環境状況など様々な総合的判断や情報収集が欠落しているからです。実は、双方が動いていることが直接的に必ずしも過失責任があることにはならないからです。一方的な相手側当事者の報告内容のみで偏った（誤った）作為的な事例もあり、精査を欠くまま拒否する担当職員が多いのも事実です。皆様・契約者様・当事者におかれましては、事故解決に向けたご協力をお願いいたしますが、事故状況や発生前の予見性、現場（環境）情報収集、写真撮影や警察への事故届出義務を履行頂き、円満解決に向けた記憶の記録をお願いいたします。

立ち読み・ななめ読み

★トヨタ危機の教訓

著者：ジェffer・K・ライカー 2200円

出版：日経BP社

リコール危機の後、見事に立ち直ったトヨタ自動車の強さの秘密が解き明かされる。組織のトヨタのその真髄には人を大切にし人を育てる企業風土があった。

★わたしが正義について語るなら

著者：やなせたかし 819円

出版：ポプラ新書

著者は、昨年94歳で亡くなったアンパンマンの作者。戦争で中国に出征した経験があり、50才を超えてやっと「アンパンマン」でメジャーデビューし、「僕は才能がないから、なんでも人より遅かった」と言う苦労人の作者が、「傷つくことなしには正義は行えない」「逆転しない正義は献身と愛」「悪者の中にも優しい心がある」「悪は一見悪っぽくない」等、自伝的に「正義とは何か」と考えてきたことを、わかりやすい言葉で書いたもの。

スタッフの声 元満 尚人

2013年の流行語大賞となった「おもてなし」、オリンピック誘致の最終プレゼンテーションが行われた、9月以降よく目にするようになりました。響といい意味といい素晴らしい言葉です。

弊社は2010年から会社のキャッチコピーを「最上級のおもてなし」として取り組んで参りました。

決して流行に便乗したわけではございません。

(笑)

皆様本年も昨年同様ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。

ご挨拶 2014年

新春を迎え、希望の年がスタートいたしました。

私ども不二越も長きにわたり、多くのお客様に支えられながら過ごして参りました。長い年月の間にたくさんの方の経験し成長しながら、今日を迎えさせて頂きましたことに心から感謝申し上げます。誠に有難うございました。今まで以上に、私たちは時代に合ったそしてお客様一人おひとりに合った保険商品の提供を使命と心得、お役に立てるよう日々精進してまいります。

ところで、皆様もすでにお気づきのことと思いますが、日本人の平均寿命が女性で86.41歳、男性が79.94歳と今なお記録を更新中です。女性にいたっては世界一位の座を奪還したようです。とても喜ばしいことですが、一方ではそれに伴い新しいリスクが生まれてきています。

東京海上日動のキャッチフレーズにありますように「生存保障革命」がまさにその受け皿となってくるものと思われませんが、私たちは時代とともに変化する新しいリスクと向き合いお客様のお役に立てるよう努めさせて頂きます。

そして、新しい不二越は、①コンシェルジュサービス②損害サービス③Fパッケージ、の三つの柱でお客様をお守りさせて頂くことをお約束いたします。

この一年、より多くの笑顔と出会えます様に事務所社員一丸となって進んで参ります。これからも末永くお付き合いいただきます様よろしくお願い申し上げます。

出会い感動「小さな命」

2014年あけましておめでとうでございます。新しい年の扉が開くと、新しい事が起こる予感を感じさせてくれます。今年一年間が皆さまにとって良い年であります事を心よりお祈り申し上げます。

さて昨年は10月になっても夏のような気候が続き、11月中旬から一気に秋から冬へと季節を変えていきました。秋を楽しむ時間が少し短く、残念な思いをしておりましたが、そんな中、たまたま歩いて帰宅途中に道端に視線を落とすと白い色の花を見かけました。

特に名前を確かめようとせずに次の朝、同じ道を歩くとその花は黄色く萎んでいました。いろいろと調べていると月見草ではないだろうかと思いましたが、さらに調べていくと、もしかすると待宵草（マツヨイグサ）かもしれないなと思いましたが。秋を感じようと土から顔を出した花は一気に冬に向かったことにさぞかし驚いたろうなと思いましたが。

作家の佐伯一麦さんは草木染をされる友人と近くの川原から採ってきた

待宵草を観察したことがあるようです。「月が顔を出した、と夜空を見上げた時に、下からかすかに吐息のような音がした。一つのつぼみが小刻みに震えだしたと思うと反転しながらゆっくりと黄色い花びらを広げ始めた。それは人知れずけなげに生きているという風情が感じられ、咲いた花はまるで明かりが灯っておるようで甘い香りがたった」と。

美しい日本がスタートしました。こんな小さな世界も見逃したくない気持ちですが、今年はこの小さなことを大切に作る年にしようと感じました。アベノミクス効果、2020年東京オリンピック開催決定と少しづつ明るさを取り戻しつつあるおもてなしの国「日本」。

何かが今までと違い何かが起こりそうな2014年に大いに期待し、これからも皆様の暮らしに役立つ特別な代理店であること、そして皆様から選ばれる特別な代理店であることを目指し進んでいきたいと思えます。

▽ 遺産相続に関心高まる

特定社会保険労務士 有光 北斗

「家や土地は分割せずに長男に渡したい」

「身寄りがないのでお世話になった人に財産を譲りたい」

「生前贈与をして、相続に備えたい」

など、相続に関する相談が司法書士会や弁護士会で、前年比2倍～3倍となっているそうです。なかでも、70歳前後の方の相続相談が増えているとのこと。その背景に、2015年から施行される相続税の引上げがあるようです。相続税は、死亡した人から不動産や現金などの資産を受取った遺族に対してかかる税で、例えば、妻と子2人を残して夫が2015年以降に亡くなった場合、現在は8,000万円以下であれば相続税はかかりませんが、2015年1月以降は4,800万円を超えると相続税を納めることになるとのこと（配偶者控除などがない場合）。また、今回は相続税を納めることとなる対象者が広がっただけでなく、最高税率のほうも現行50%から55%へ引き上げられるそうです。

相続に関する相談者の大半は、「うちに限って・・・」とお思いになられているのだそうです。相続財産を計算してみると思っている以上にあつたりする場合があります。その場合には大きな金額が動きますので、兄弟の態度が豹変したり、知らない人が名乗り出てきたりもします。また、相続の問題がきっかけで、一生兄弟関係が疎遠になってしまったという方も多くいらっしゃるそうです。相続は複雑な感情の問題が多く絡みますので、法律だからといって簡単には解決できない場合が多々あります。関係は一度壊れてしまうと修復は困難で、壊れる前に対処する必要があります。

相続を円滑に進めるには「遺言書を作成する」ということが効果的であり、唯一の方法だといっても過言ではないそうです。

財産の大小にかかわらず、自分の死後、財産がどうなるのか？を知り、自分の財産をどうしたいのか？を考えておくことは大切なことです。

苦労して築いた財産が死後、争いの種になるのは忍びないでしょうから、元気なうちに、しっかり相続について考える機会をもってみてはいかがでしょうか？